

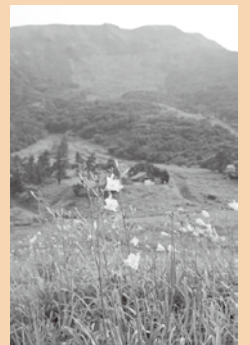


ようやく三合目に到着。小休止

環人会ツアーVol.9

幻のヒメボタルに出逢う旅 伊吹山夜間登山2009

- ◆日時／2009年7月11日(土)19時～12日(日)10時
- ◆場所／伊吹山(米原市)
- ◆集合／米原駅東口
- ◆参加／7名(うち1名 1合目で棄権)
- ◆案内人／米原市役所経済環境部環境保全課 三輪直之(近江環人2期生)



ユウスゲ群落。伊吹山を望んで

▲みんなが楽しい伊吹山

滋賀県で一番高い標高1,377mの伊吹山。皆さん、登ったことがありますか？

「ドライブウェイで山頂まで行ったことがあるけど、登ったことはないなあ」なんて人も多いはず。かくいう僕も、恥ずかしながらふもとから登ったことはありませんでした。

今回の環人会ツアーの舞台は米原市で、伊吹山夜間登山にチャレンジしました。

この登山は、地元米原市上野区と伊吹山観光振興会、そして市役所の若手職員が関わっている「みんなが楽しい伊吹山プロジェクト」が実施したものです。環人会では、このイベントに乗っかって、おいしいところだけをいただくました。

▲花火もみえた

前日まではぐずついた天候で、開催自体が危ぶまれていたのですが、当日は何とか天気を持ち直しました。

夜間登山ということので、ふもとの三之宮神社を午後7時にスタートし、真っ暗な闇の中を、懐中電灯やヘッドランプで足下を照らしながら、行列の最後尾でのんびりと登り始めました。

とはいっても、夜の林道の中は非常に蒸し暑く、日頃の運動不足もあって、3合目に到着するまでにかなりの体力を消耗していました(体調不良で1名がリタイヤ。残念無念)。3合目では、ボランティアガイドによる解説のもと、ライトアップされたユウスゲの花々を観察し、ひとときの休憩の後に、再び山頂を目指します。

途中、ふもとを振り返ると、米原と長浜の夜景が綺麗に見えました。また当日は高宮の花火大会だったので、彦根方面で打ち上げられた花火が小さく見えました。離れた所から見る花火もなかなか趣があって良いねなどと話しながら淡々と登っていきます。

▲ヒメボタルがチカッチカッ

さて、今回の登山の目的は、幻と言われている「ヒメボタル」を見ること。

川のない伊吹山山頂にどうしてホタルがいるのか？皆さんは不思議に思われるのではないのでしょうか。実は伊吹山の朝晩の湿度が川の役割を果たしているのだそうです。また、山頂にはホタルのえさとなるカワニナ(貝)はいませんが、ヒメボタルの幼虫はカタツムリ(ー)を食べて大きくなるのだそうです。

急傾斜を登りへ口へ口になりながら、一同がやっとたどり着いた8合目で、そんなヒメボタルの乱舞している場面に遭遇することができました！

ヒメボタルの光の点灯スピードは、湖北で見られるゲンジボタルやヘイケボタルに比べて点滅が早く、乱舞している姿は、あちらこちらでフラッシュがたかかっている感じです。音にすると、チカッチカッって感じです。

幻のヒメボタルを見ることができた幸運を噛みしめながら、一同はホタルの光に元気をもらって、なんとか山頂までたどり着くことができました。時計の針はすでに0時を回っていて、疲れ果てた一同は、山小屋で仮眠を取りました。



朝5時下山。朝食が待つ3合目をめざす



頂上にて、朝のご来光を待つ一行



3合目のユウスゲを背景に記念写真



7合目~8合目付近



山頂にあった化石



ヒメボタルの好物カタツムリ



山頂でみた、ヒメボタルの乱舞

▲みんなも登ろうぜ！
 今回の環人会ツアーは体育会系で、言い出さずの僕にとっても体力的に厳しいものでしたが、いつもふもとから眺めているだけの伊吹山の豊かな自然に、身を持って触れることができた良い機会でした。これからは自信を持って、「伊吹山に登ったことあるぜっ！」と言えます。参加された皆さん、スタッフの皆さん大変お疲れ様でした。

マイお椀持参です。そのおししは格別でした。
 ふもとに下りてきたのは、午前9時過ぎ。参加者に振る舞われた伊吹そばを食べながら、お互いの奮闘を讃え合いました。

▲ご来光は残念…
 翌日は、日の出前に起きて、ご来光を待ちましたが、残念ながら曇り空のため見ることはできませんでした。
 早朝5時に下山を開始して、思うように動かない曲がらない足と、筋肉痛と格闘しながら、3合目まで下り、スタッフの皆さんが用意してくれたおいしい豚汁とおにぎりを食べました（もちろんマイ箸と